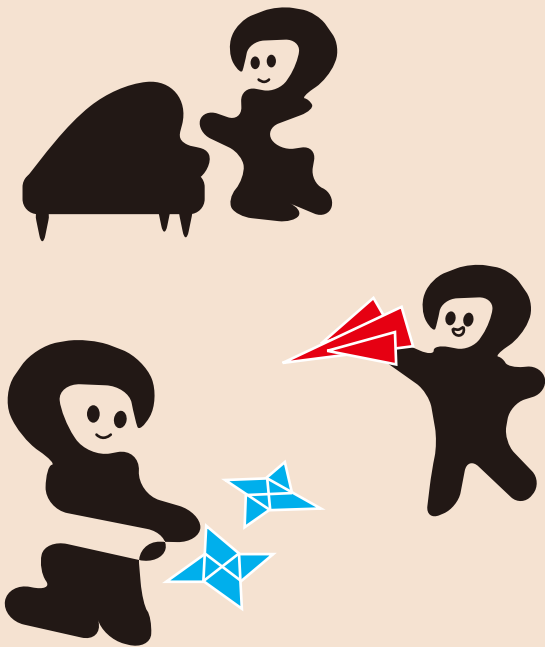


万遊鏡



ごあいさつ

わらべ館 館長 岩成 潔一

鳥取童謡・おもちゃ館「わらべ館」は平成7年に開館して13年目を迎えました。わらべ館は、それを遡る平成元年に「鳥取世界おもちゃ博覧会」が開催され、世界各地から集めたおもちゃを展示・保存し、博覧会を顕彰する施設、そして童謡・唱歌のふるさとづくり鳥取の拠点施設という二つのテーマを備えたミュージアムです。また、生涯学習と観光という広い機能を持った施設として、来館者に、地域に、全国に向け、収集した資料の研究成果の情報発信に努めています。

「ギャラリー童夢」では、おもちゃや遊びに関する小規模の企画展を年4回開催していますが、各回のテーマに合わせて、館の収蔵資料や他館や個人からお借りした貴重な資料を展示し、常設展では紹介しきれない遊びの魅力に触れていただくものです。その報告書として『万遊鏡』も第4号を発行する運びとなりました。前号から加わった「むかしのあそびと歌」の収集事業報告では、引き続き鳥取の「お手玉遊び歌」を掲載しています。

今後も資料の収集、調査、研究に努め、展示と報告書のさらなる充実を図るため、情報収集をはじめ、類似施設や教育機関等との連携も進めていきたいと考えていますので、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。最後に『万遊鏡』へのご意見、ご感想をお願いし、刊行のご挨拶といたします。

平成21年3月吉日

目次

ごあいさつ

◆ギャラリー童夢企画展

Toy 楽器展	1
プラモデル in 鳥取	5
おりがみ折紙 origami 展	9
うしにひかれてわらべ館—干支の郷土玩具展	13
アンケート集計	17

◆むかしの遊び・うた

鳥取のお手玉遊びの歌—「とつとりのお手玉の会」の資料より	19
------------------------------	----

◆わらべ館の今まで（おもちゃと遊び関連） ギャラリー童夢展示履歴

本書は、わらべ館3階の「ギャラリー童夢」という展示スペースで、年間4回開催される企画展の平成20年度分の報告である。展示の企画については、長嶺泉子（調査・展示係専門員兼係長）が担当し、川崎香苗同係専門員、平緒佐和同係専門員、山本繭子同係職員が、解説の確認、展示の補助を行った。報告書の作成は、長嶺が担当、川崎、平緒、山本が補足した。

「T o y 楽器展」

期間：平成 20 年 3 月 20 日～6 月 17 日

【開催趣旨】

音を鳴らす行為は、赤ちゃんがガラガラで遊ぶように、知識や経験を得ずに楽しめる単純な遊びの一つ。民族楽器の中には、木の実などの植物や石を使った簡単な構造のものも多く、それらは玩具の世界にも応用されている。今回の展示では、郷土玩具や駄玩具など「楽器」の形ではない玩具から、最新のトイピアノまで、音を鳴らす目的の玩具を、その音色とともに紹介した。

【展示資料一覧】

資料名	年代	材質	資料名	年代	材質
しょろしょろ狐土鈴	平成元年	土	グランドピアノ（黒）	平成 20 年	プラ 他
鳩笛	平成 8 年	土	グランドピアノ（黒）(中国)	1960 年代	木
ふぐ土笛	昭和 40 年代	土	グランドピアノ（赤）	昭和 30 年代	木
唐人笛	平成 19 年	あけび	ピアノブック	昭和 30 年代	木・紙
犬山でんでん太鼓	平成 19 年	紙、木	アップライトピアノ	昭和 30 年代	木・鉄 他
からくり猩々	平成 19 年	紙、木	ヴァイオリン	昭和初期	ブリキ 他
ぽっぺん（ビードロ）	昭和 50 年代	ガラス	ヴァイオリン	平成 19 年	プラスチック
ミンミンぜみ	平成 19 年	竹、木	バンジョー	昭和初期	ブリキ 他
持ち太鼓	昭和初期	ブリキ	ギター	昭和 30 年代	ブリキ 他
持ち太鼓	昭和初期	ブリキ	ギター	昭和 40 年代	ブリキ 他
持ち太鼓	昭和初期	ブリキ	トランペット	昭和 20 年代	鉄
シロフォン	昭和 30 年代	ブリキ	キンダークラリーナ	1990 年代	プラスチック
シロフォン人形	昭和 30 年代	ブリキ・木	三味線	大正時代	木 他
サイレン笛	昭和 30 年代	ブリキ	三味線	昭和 40 年代	プラスチック
カチカチ（動物型など）	昭和 30 年代	ブリキ	鍵盤ハーモニカ	昭和 50 年代	プラスチック
笛（サーカス）	昭和 50 年代	ブリキ	タンバリン（箱付）	昭和 30 年代	
笛（ゴレンジャー）	昭和 50 年代	ブリキ	タンバリン（アニメキャラ）	昭和 50 年代	紙 他
たて笛	昭和 30 年代	木	ドラム（ピエロ）	昭和 30 年代	紙 他
竹笛	昭和 30 年代	竹	ドラム（ビッケ）	昭和 50 年代	プラスチック
鉄笛	昭和 30 年代	鉄	和太鼓	昭和 20 年代	木・皮
人形笛	平成 19 年	プラスチック	和太鼓	平成 19 年	木・皮
スライドホイッスル	平成 19 年	プラスチック	サクソフォン	平成 19 年	プラスチック
伸び笛	昭和 20 年代	紙	バキバキ	平成 19 年	木
スマイル吹き戻し	平成 19 年	プラ・紙	よっちょれよ	平成 19 年	木
風船笛	平成 19 年	プラ・ゴム 他	ピコピコハンマー	平成 19 年	プラスチック
木の実シェーカー（ブルー）	1990 年代	マイチルの実	カタカタ	平成 19 年	木
マラカス（ジンバブエ）	1990 年代	ひょうたん	カラフルメロディ笛	平成 19 年	プラスチック
パロ・デ・セミージャ	1990 年代	サボテン	でんでん太鼓	平成 19 年	木・紙
エアギター	平成 20 年	プラスチック			

（すべてわらべ館所蔵）

【資料ピックアップ】

◆トイピアノ（昭和30年代か）

黒鍵も鳴らせるアップライト型 65cm×25cm（鍵盤の箇所）×50cm、37 鍵のトイピアノである。音色は、いかにもトイピアノという感じではあるが、その大きさに見合ったボリュームある響きは、おもちゃとは言え演奏の楽しみを味わえるものだ。

鳥取市内のアンティークショップで購入したが、履歴は不明とのこと。本体の前面に記された「clear」がブランド名と思われ、昭和30～40年代までトイ楽器が盛んに作られた名古屋市や浜松市など愛知県産ではないかと推察される。今後もその来歴を調査し、類似品を収集していきたいと思わせるトイ楽器である。



蓋の内側にあるマーク

◆ピアノブック（昭和30年代か）

本をかたどったトイピアノで、その音色はいかにも「チンチンピアノ」と呼ぶにふさわしい。表紙を開くと鍵盤と楽譜が現れ、ジングルベルなどなじみのある曲が5曲、かわいいイラストとともに印刷されている。日本製ではあるが、歌詞の英語表記とディズニー風のキャラクターのイラストから、輸出用と思われる。



◆^{とうじんぶえ}唐人笛（^{なんぼんぶえ}南蛮笛）（平成19年）

長野県のあけび細工の郷土玩具として、鳩車と並んで有名な唐人笛。別名チャルメラといえ、ラーメン屋台でおなじみのあのメロディーを奏でる楽器である。この唐人笛は、その素朴な外見からは想像もつかないくらい勢いのある音が出て、吹く方、聞く方両方が驚かされる。

ブリキ製のカラフルな絵付けをされたチャルメラは、駄菓子屋にも並び、子ども達のおもちゃとして吹き鳴らされていた。



◆エアギター（平成19年）

そこには何も無いのに腰掛けているような体勢を「空気椅子」と言うが、同じように、主にハードロックの曲に合わせ、激しくギターの弾き真似をする「エアギター」なるパフォーマンスがあり、フィンランドで開かれている世界大会では近年日本人が優勝や入賞をしているせいか、ここ数年で一般的に認知されるようになった。

この「エアギター」というおもちゃは、ギターのネックのみの形状をしており、そこにコードやアルペジオを選ぶボタンがある。右利きの場合、左手にネックを持ち、右手で本体から発される赤外線を遮って音を出す仕組みになっている。基本的な一定のコードだけしか鳴らせないが、転調も可能で、自分でリズムに合わせて音を出せるおもおもちゃは、何も持たずに音に合わせて演奏スタイルを演じるエアギターとは特性が異なり、名前こそ同じだが「楽器」に近い形態と言える。

◆ブリキの「音具」(昭和30～40年代)

駄菓子屋さんのブリキのおもちゃには、チャルメラのように既製の楽器の形をしていないものの、音を鳴らして遊ぶおもちゃが数種類含まれている。楽器の研究者の中には、ブリキに限らず、このような音を楽しむおもちゃを「音具」としてまとめ、模倣が楽しい楽器型おもちゃとは異なる遊びのあり方を提示している。右図のブリキの「音具」の名称は、その音をとって「カチカチ」と呼ばれている。



【音具とは—駄菓子屋発のおもちゃ】

いわゆる「楽器」とは異なるが、音を鳴らす仕掛けのあるおもちゃのことを「音具」とも言う。昭和50年ごろまで駄菓子屋で売られていたブリキの音具たちは、簡単な仕掛けで吹いたり、指で弾いたり、または振り回したりして、それぞれの音を楽しめるようになっている。その仕掛けは、郷土玩具から見られるものも多いが、針金を回転させる度に「カチカチ…」と金属音が鳴る音具は、ブリキならではのものだ。

現在、駄菓子屋さんの役割を担っているのが、街中のコンビニエンスストア。そして、ほとんどがプラスチック製ではあるが、郷土玩具もどきから不思議な音が出るおもちゃまで、種類も豊富に揃う百円ショップでおもちゃを熱心に品定めする子どもの姿が見られる。



駄菓子屋の音具

【土地に根付いた音世界—郷土玩具・民族楽器】

土笛や土鈴など郷土玩具には、音を出す単純な仕掛けと明快な造形とが一体となって、その土地の原風景を今に伝える力がある。鳩の鳴き声そのものが土笛の音を思わせるのか、鳩笛は各地で作られている。また、丸い形が土笛向きなふぐの土笛も郷土玩具の名品として定着している。

また、マラカスやレインスティックなどの簡単なつくりの民族楽器も土地に息づく舞踊や祭りに欠かせない音を奏でるが、そうした精神性を抜きにしても、笛や太鼓、木琴状の楽器は、吹く、たたくという簡単な動作で音を鳴らして楽しむことができる。



パロ・デ・セミージャ

【なりきること—模倣の楽しみ】

グランドピアノの形をしたトイピアノ、ピストンを上下できるラップなど、本物のミニチュア版のようなトイ楽器は、遊ぶ側からすれば、演奏というよりも音が鳴ること、そして決めポーズの方が大事かもしれない。まねごとは遊びの大事な要素のひとつ。ピアニストやギタリストに憧れるのは、子どもに限ったことではなく、昨今のエアギターブームに乗じて登場したその名も「エアギター」なるおもちゃを楽しむ大人にとっても、模倣からはじまる遊びだろう。



ブリキのギター

【つくって鳴らす】

子ども向けの工作本には、多くの音具の作り方が掲載されていて、紙やストローの笛、ペットボトル

のシェーカーなど構造が簡単なものでも立派に音を鳴らせる。笛であれば、指穴の位置や材料の素材、大きさを変えると音はどんな風に変化するのか、そんな疑問も手づくりならば、試してみることができる。自分がつくった音具を通して、音の誕生にも立ち会うことになる。

【補足展示—つくって鳴らそう！～かんたん手作り楽器～】

ストローを使った笛や牛乳パックなどの厚紙で、「音具」3点を工作する手順を示したプリントを展示ケースの隣に設置して、希望者には持ち帰れるようにした。

①うぐいすぶえ

土産物店でも良く見かける竹製のうぐいすぶえを、ここでは厚紙とストローによる工作で紹介した。

②パリパリくん

ストローの先にセロファンテープでふたをするように貼り付けて、テープの余った両端をこすり合わせるようにストローを指の腹で転がすと、パリパリという音が鳴るもの。

③紙ホイッスル

牛乳パックほどの厚紙でダブルリードの笛ができる。L字型の紙を折り曲げていくだけで接着剤すら要らない簡単な構造だが、それだけに良い音を鳴らすのはなかなか難しかった。



民族楽器や郷土玩具、駄菓子屋の音具



100円均一のToy楽器と音具



鍵盤楽器や三味線など模倣する遊び

実際に音が鳴らせるToy楽器は、展示前に録音しておき、キャプションとは別に番号札を添え、1から順に録音した音声をループで再現した。

【参考文献】

『おもちゃが奏でる日本の音』 茂手木潔子 著 竹内敏信 写真 音楽之友社 1998年

「プラモデル in 鳥取」

期間：平成 20 年 6 月 19 日～9 月 15 日

【開催趣旨】

2008 年は国産プラモデル発売 50 周年という節目の年にあたり、その歩みをたどる動きも各方面で見られた。本展では、プラモデルそのものの成り立ちや国内の歴史を概説するとともに、スケールモデルの展示には、野々上秀樹氏と鳥取在住のモデラー集団「親父モデラーズ」の協力を得て、えり抜きの作品を紹介した。

【展示資料一覧】

カテゴリー	スケール	作品名	キットメーカー	制作者
飛行機	1/32	航空自衛隊 F-4EJ改 ファントムII	タミヤ	山根 慎一
		ドイツ空軍 メッサーシュミット Bf109 G-10	ハセガワ	山根 慎一
	1/48	アメリカ海軍 F-14A トムキャット	ハセガワ	山根 慎一
		日本陸軍 二式戦闘機 鍾馭(ショウキ)	オオタキ	山根 慎一
		航空自衛隊 T-2 練習機	フジミ	大西 敏和
	1/72	アメリカ空軍 AC-130A ハーキュリーズ ガンシップ	イタレリ	大西 敏和
	1/144	日本海軍 零式艦上戦闘機21型	SWEET	山根 慎一
		航空自衛隊 F-4EJ改 ファントムII	アライ	大西 敏和
		海上自衛隊 P-3C オライオン	LS	大西 敏和
		アメリカ海軍 F4F-4 ワイルドキャット	SWEET	大西 敏和
旅客機	1/144	ボーイング 777-200 ANA	童友社	岩田 昭夫
		日本航空機製造 YS-11 全日空 モヒカン塗装	ハセガワ	岩田 昭夫
ヘリコプター	1/72	海上自衛隊 SH-60J シーホーク	ハセガワ	角田 治
AFV ※	1/25	ソビエト T34/85	タミヤ	豊田 伸一
	1/35	ドイツ ヤクトティーガー	ニチモ	豊田 伸一
		ドイツ レオパルド2 A5	タミヤ	中村 勝弘
	1/48	フランス シトロエン 11CV スタッパー	タミヤ	中村 勝弘
		ドイツ キューベルワーゲン	タミヤ	中村 勝弘
		ドイツ III号突撃砲B型	タミヤ	中村 勝弘
		アメリカ M4 シャーマン	タミヤ	中村 勝弘
イギリス クルーセイダーMk. I	タミヤ	中村 勝弘		
艦船	1/700	日本海軍 戦艦 大和	フジミ	野々上秀樹
		日本海軍 戦艦 日向	ハセガワ	野々上秀樹
		日本海軍 重巡洋艦 摩耶	ピットロード	野々上秀樹
		日本海軍 水上機母艦 瑞穂	アオシマ	野々上秀樹
		アメリカ海軍 戦艦 BB-39 アリゾナ	ドラゴン	野々上秀樹
クルマ	1/12	マクラーレン MP4/6 HONDA	タミヤ	田中 光男
	1/20	ウィリアムズ BMW FW24	タミヤ	田中 光男
	1/24	フェラーリ 328GTS	ハセガワ	辻中 健司
		フェラーリ 355スパイダー	フジミ	辻中 健司
		フェラーリ 599	フジミ	辻中 健司
		フェラーリ F50	タミヤ	辻中 健司
		ニスモ クラリオン GT-R LM '95ル・マン出場車	タミヤ	大西 敏和
		フォード フォーカス WRC	タミヤ	大西 敏和
		三菱ランサー エヴォリューションVI	フジミ	大西 敏和
		ロータス スーパー7	タミヤ	山根 慎一

カテゴリー	スケール	作品名	キットメーカー	制作者
バイク	1/12	スズキ GSX1100S カタナ	タミヤ	豊田 伸一
その他	1/50	蒸気機関車 C53	アライ	岩田 昭夫

※AFVとは、Armored Fighting Vehicle の略で、装甲された戦闘用車両のこと

【出展者について 野々上秀樹氏、「親父モデラーズ」】

今回の展示で、艦船を除くスケールモデルは鳥取在住のモデラー集団「親父モデラーズ」の作品。その名のとおりに、日本のプラモデルの歴史とともにモデラー人生を歩まれてきた方々である。今回は、メンバー各自から、得意分野の飛行機、戦車、自動車のスケールモデルを出展していただいた。年1回定期的に新作展を開催するなど、積極的な作品の公開により、スケールモデルの可能性を示し続けている。

その「親父モデラーズ」と交流のあるモデラーとして、今回の展示で艦船を出展されたのが、津山市在住の野々上秀樹氏。専門誌にも数多くの作品を掲載されるその実力は、ウォーターラインのスケールモデルで限らない再現性を発揮されている。

こうしたスケールモデルの真髄であるリアルさは、今回の展示で初めてそれらを目にした子どもたちからは驚きと、プラモデル少年だった大人たちからは羨望をもって受け入れられていた。



1942年時の戦艦大和（野々上氏）

【プラモデルとは】

◆プラスチックモデルキットの「プラ」

プラスチックとは一般的に合成樹脂の総称として使われているが、プラモデルに限れば、主にポリスチレンという素材が多用されている。

プラスチックを用いたモデルキットを今では当たり前のように「プラモデル」と呼ぶが、この呼称は、1960年頃の国産プラスチックモデルキット勃興期、先駆的なメーカーのマルサン商店が広告展開に用い、それが他社にも広く普及したため、プラスチックモデルキット＝プラモデルという認識が広まった。登録商標の問題から、その使用が制限される時期もあったが、1970年代にその問題が解決すると、「プラモデル」や「プラホビー」はプラスチックモデルの愛称として正式に認められることになった。

◆プラモデル前史～付録と教材の模型

子ども雑誌の付録の歴史をひも解くと、男の子を対象とした雑誌では模型キットが圧倒的な人気を得ていた。新素材のプラスチックが登場する前、明治・大正から昭和初期までは、主に紙製の船や車、有名な建造物などがキット化され、中には1m近い大型艦船が完成する驚きの付録もあった。当時このような雑誌を買えるのは富裕層の家庭だったが、男の子の模型工作熱は確実に醸成されていた。

また、模型飛行機（ライトプレーン）は50代以上の男性にとって、特別なじみ深い工作キットだろう。学校教材にも採用され一世を風靡したこのキットは、ディスプレイモデルとは異なり、飛ぶことが再現性よりも重視されているが、当時の子どもたちが細かな工作にも積極的に取り組んでいたことが伝わってくる。

◆プラモ史

○国産プラモデルの誕生

世界的には、プラスチックモデルが誕生したのは1936年、イギリスの英国機をモデルにした「IMA社」の「ペンギン」シリーズとされる。日本での商品化は、その20年以上も後で、まず先行する諸外国のモデルのレプリカからスタートした。国産初のプラモデルは、1958年に発売されたマルサン商店の原子力潜水艦「ノーチラス号」というのが定説だが、同時期に別のメーカーもプラスチックモデルを商品化していたらしく、マルサンが広告力や商品展開で他社に水をあけたことが、その定説を後押ししたと言える。

発売当初は高額が災いして、売上げが伸びなかったプラモデルだが、その対策として、メーカーは新しいメディア、テレビの番組を利用してプラモデルの面白さをアピールしていく中で、戦艦等のミリタリーモデルや「サンダーバード」といったキャラクターモデルのヒット商品を契機とし、一大ブームを呼び起こした。



展示の様子

○素材革命…メーカーの発展

日本の模型業界は、第二次世界大戦前から木製の模型飛行機などの製作に技術力を発揮していた。敗戦後、教育現場から模型飛行機作りが排除された時は、その技術をいかした生活雑貨の生産で苦境を乗り越えたメーカーもあった。

一方「made in occupied Japan」の刻印から再出発し、セルロイドのおもちゃをアメリカへ輸出していた玩具メーカーも徐々に事業を回復、軌道に乗せたのも束の間、1954年のクリスマス前に、発火しやすいという理由から、日本製のセルロイドおもちゃが輸入禁止の措置をこうむっている。しかし、それをきっかけに日本のメーカーは新たな素材として、すでに海外で利用されていたプラスチックの導入に目を向け、それまでに培った金型の技術をプラスチックに転用し、木やブリキ、セルロイドに代わるプラスチック製品を次々と開発、表現の可能性を広げていった。

このように木製模型のメーカー（静岡）と、玩具メーカー（東京）という二つの流れから、プラモデルの業界は発展していった。

○動力革命…小型モーターの登場

モーターライズモデルという動かして楽しむプラモデルも、モーターの進化と歩調を合わせてきた。かつて模型を動かすための動力源はゴムが主役で、あとは海外の高価なうえ扱いが難しいモーターがわずかにある状況。ところが1954年に登場した国産の小型マグネットモーターは、その状況を一変させた。製作したのは現在マブチモーターの名で世界に知られる東京科学工業などの数社だが、それらが模型に導入されると、モーターライズモデルの表現の幅は格段に広がることとなった。

【「動く」から「見せる」へ】

ディスプレイモデルの再現性は、大人のモデラーは特にこだわりたいところ。熟練したモデラーは箱絵どおりにつくるのではなく、たとえばミリタリーものならば、戦史や技術史など自身で積み上げた知識を動員して、キットには無い細部やジオラマ等の作品に反映させている。

そうした作品を発表する場、そしてお互いに研鑽を積む場として、主に大人のモデラーは各地でグループを組織化している。大きなホビーショーで開催されるモデラーの合同展示会は、そうしたものづく

りの猛者たちが一堂に会する空間となっている。

【多種多様な製品化】

プラモデルを分類する時、その外見からは、スケールモデルとキャラクターモデルに二分される。スケールモデルとは1/24や1/144など、実物を縮尺に応じて小型化したもので、キャラクターモデルはガンブラに代表される現実に無いものの造形、と大別されるが、キャラクターモデルにも製品によっては縮尺が設定されているものがあり、受け入れるモデラー側の成熟度を裏付けている。

その他、楽しみ方によって観賞するディスプレイモデルと動かして遊ぶモーターライズモデルにも分類される。現在、大人が楽しむ精巧なプラモデル、として思い浮かべるのは前者の方。

また、スケールモデルの対象を分類すると、車や飛行機などの乗り物が一般的だが、その他にも建築物では日本の名城や名刹をモデル化したものや、屋台、民家、楽器や甲冑、人体骨格など、ユニークなシリーズを展開しているメーカーもある。それらの中には「こんなものが？」と需要数に疑問符が付く内容のものもあるが、意外にモデラーの要求とメーカーの開発との需給のバランスが調和しているのかもしれない。

【ボックスアート】

近年、プラモデルの箱絵を「ボックスアート」と称して新たに検証する動きがある。その中で、ボックスアートの第一人者として名前が挙がるのが小松崎茂氏である。ミリタリーものからSFものまで、その臨場感あふれる情景や人物描写などは、もともと人気挿絵画家という実力どおり、子どもたちにとって中身への期待を十分にかきたてるものだった。小松崎以外にも、艦船ならば上田毅八郎氏、戦車ならば高荷義之氏というように、画家それぞれの個性に応じた位置付けがあり、メーカー内での徒弟制とも言うべき世代間の継承も順調に行われ、人気画家が次々と誕生した。

このように、ボックスアートの価値が高まると、本体以上にパッケージのアートワークが購入動機となることもあったが、その後、梱包されていないものを表示すべからず、というアメリカの消費者運動から自主規制が生れ、背景や人物の無いイラストや実写のパッケージが登場することとなった。単なる製品の完成図に止まらない表現が魅力だったボックスアートの世界も変化を強いられている。

★プラモデル初体験記★

プラモデルをまったく作ったことが無い担当が、「1/24 スポーツカーシリーズ フォルクスワーゲン ニュービートル」(タミヤ)を無塗装で作ってみた。安全面や道具の条件を整え、マニュアルどおりに取り組むこと5時間で完成をみたが、無駄の無い成型技術に驚くとともに、作品の完成までの使命感と達成感(と虚脱感)の会得が、初心者にとってプラモ制作の醍醐味の一つかと思う。現在、スケールモデルは圧倒的に男性の世界だが、女性にも戦闘機や艦船などモデルの対象にファンが増えれば、いずれ広がりを見せるジャンルかもしれない。



【参考文献】

『プラモデル進化論 ゼロ戦からPGガンダムまで』今柊二 著 イースト・プレス 2000年

『ボックスアート～プラモデルパッケージ原画と戦後の日本文化』工藤健志・村上敬・中村光信編集 2007年

『小松崎 茂 [プラモデルパッケージの世界]』平野克巳 著 大日本絵画 1999年

「おりがみ折紙 origami 展」

期間：平成 20 年 9 月 16 日～12 月 16 日

【開催趣旨】

折紙は世界各地でそれぞれに伝承されているが、日本語の「origami」は世界でも通じ、折図の表記など日本から発信し、定着したものも多い。言葉の要らない遊びとして、国際化が進む折紙の世界を 3 人の折紙作家の作品に照らし合わせ、紹介した。

【展示資料一覧】

タイトル	作家名	タイトル	作家名	タイトル	作家名
河童	山田勝久	猫の歳時記	房安寿美枝	ローズガーデン	津川美央
虫の標本箱		ガーベラ		マーガレット	
キリン		ヒヤシンス		イリュージョン	
ゾウ		秋の七草		ふうふうばるーん	
ヌー		海の仲間		メテオロイド	
ゴリラ		タンポポ		ロマン	
イカ			雲峰		
タコ			曼珠沙華		
マグロ			ラビリンス		
イトマキエイ			はるてまり		
ステゴザウルス			てんてんてまり		
トリケラトプス					
アパトサウルス					
ティラノサウルス					
クマ※					
リス※					
ムササビ※					
モグラ※					
オオサンショウウオ※					
イソコモリグモ※					
アリジゴク※					

(※印はわらべ館所蔵)

【出展者の紹介 山田勝久氏、房安寿美枝氏、津川美央氏】

◆山田勝久氏（神奈川県清川村）

高校時代、岩倉啓祐氏による不切正方形一枚折り（注）の「カンガルー」との出会いをきっかけとしてその世界に入り、これまでに折鶴や魚の基本形から発展する昆虫や動物、恐竜等を発表されている。また、作品のモチーフや質感に応じて、自身で紙を染め、あるいは張り合わせ、また業者に制作を依頼するといった素材からのアプローチも行っている。そうして生み出された作品の中でも恐竜や甲虫は人気が高く、多くの出版物を発表されている。

今回の展示では、既存の作品の他に、イソコモリグモ（鳥取砂丘に棲息）など鳥取に生きる動物の中からいくつかを鳥取の名産品「因州和紙」（房安氏の項参考）で折っていただき、当館の所蔵資料に加えることができた（上表の※）。

日本折紙協会（折紙講師）、日本折紙学会会員。HP「おりがみ畑」<http://w01.tp1.jp/~a150296341/>

注…1枚の正方形の折紙に切り込みや断ち切りをせず、完成させる折り方。

◆房安寿美枝氏（鳥取県鳥取市）

鳥取はかつての因幡国と伯耆国からなる県だが、県東部にあたる因幡には「因州和紙」という地場産業が古くからあり、大きく鳥取市の青谷町と佐治町の二ヶ所で生産されている。房安氏は、青谷町に軒を連ねる和紙工房の一つ「いなば和紙協業組合」の運営に携わることから、因州和紙の普及のために、各地で折紙教室の講師を務め、和紙の風合いを生かした作品を提供されている。地元フリーペーパーの表紙も飾るように、花や風物詩をモチーフにした季節感のある作品が多いが、服飾やインテリアデザイナーとの共同展示などでは、灯りを用いた大型のオブジェも手がけ、和紙の魅力を広範囲に伝えている。

今回の展示では、四季の花々や歳時記をコラージュした作品が並び、和紙の特徴である優しく温もりのある造形と繊細な色味を伝えられた。日本折紙協会会員（折紙講師）。

◆津川美央氏（鳥取県北栄町）

一定のパーツを組み合わせてくすだまを作るユニット折紙の作家として、美しい色どりとユニークな造形の作品を数多く発表されている。折紙のくすだまと言えば、今回の展示を見た女性たちから子どもの頃に作った思い出を幾度か聴いたが、津川氏の作品は多様なパーツとその組み合わせが、そうした伝承折紙よりもはるかに複雑である。たとえば「マーガレット」という作品では、それぞれの花卉が先端まで繊細に表現され、組み合わせた時のグラデーションが美しい。また、幾何学的な籠状のユニット作品は、すっきりとした直線の交差が作品の表情を引き締めている。

地元の北栄町で折紙教室の講師を務めるとともに、自身のHP「ふうふう村のくすだま工房」(<http://puupuu.goزارu.jp/>)では「くすだまウィルスを蔓延させる」べく、折図の公開ページやギャラリーを設置しており、それらは英語表記もされているので海外からのアクセスも多く、世界中から作品が注目されている。

【資料ピックアップ】

◆河童（山田勝久氏）

今回、山田氏の作品展示を依頼したきっかけが、この「河童」の存在。日本折紙学会主催の第1回妖怪おりがみコンテストにて「水木しげる賞」を受賞した作品だが、その水木氏の出身地は鳥取県の境港市なので、地元でも実物を紹介したいというのが動機だった。大人と子どもの河童が相撲の稽古をつけている様子が、いきいきと無駄なく表現され、水木氏が授賞を即決されたというのもうなずける。



◆虫の標本箱（山田勝久氏）

山田氏の紹介にも述べたとおり、虫の作品の中でも特に甲虫類は人気が高く、今回の展示でも子どもたちに人気のあった作品の一つ。カブトムシやクワガタなど光沢のある甲虫は、その質感を出すために、新たに作った専用の紙で制作された。本物の標本の



虫の標本箱とイソコモリグモ(右上)

ように小ケースに収められた甲虫群は、本物と折紙の境界を見事なバランス感覚で表現されている。

◆イソコモリグモ（山田勝久氏）

鳥取砂丘に棲息するイソコモリグモの写真をお渡しして制作を依頼したところ、実際は2 cmほどの体長の彼らが2倍弱の大きさになって、鳥取へ届けられた。作品を見た方には、絶滅危惧Ⅱ類という貴重な種の存在に親しみを持っていただけたらどうか。

◆猫の歳時記（房安寿美枝氏）

猫が見た12ヶ月を折紙で表現した連作で、白猫の後ろ姿を前景にして、花火やクリスマスツリーなど季節感のある背景にいたるまで因州和紙で作られている。和紙特有の毛羽立ちや色の濃淡を活かし、ほのぼのとした歳時記に足を止める来館者も多かった。



◆秋の草花（房安寿美枝氏）

桔梗や紅葉など秋の草花を実物大で制作されている。微妙に異なる色合いの花びらや葉の先まで自然の曲線美が行き届いた表現が、ペーパークラフトではなく折紙でなされていることに驚く方も多く見られた。

◆ラビリンス（津川美央氏）

津川氏の作品はそのタイトルも魅力的で、ユニット折紙の表現の多様性を示唆している。この作品では、たしかに渦を巻く各パーツと緑や紫などの深い色彩をじっくり見ていると、タイトルどおり迷宮に入り込むかのような感覚に見舞われる。



◆ローズガーデン（津川美央氏）

2タイプのパーツがあり、ベースが80個(!)、メインの花が30個ずつというパーツを折るだけでも大変に思える作品だが、それだけに豪華さが際立つ大輪の花のような作品。津川氏はいろいろな形のパーツを折ったり組み合わせたりする過程で、くすだま作品のイメージを作られていくそうだが、これは、そうした蓄積があってこそ生み出される造形かもしれない。

【金子みすゞと折紙】

唐突に詩人、金子みすゞ（1903～30）の名が登場するが、「折紙あそび」という詩の存在を筆者が知ったのは、この企画展の準備中のこと。笠原邦夫氏の著作『おりがみ新発見3』（日貿出版社 2005）に、詩とそれに登場する折紙作品を紹介するページがあった。それは、

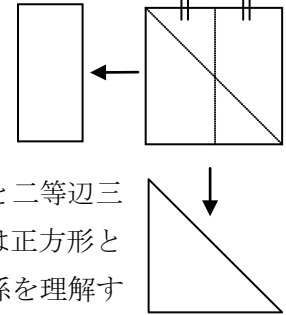
「虚無僧」→「鯛の尾」→「帆掛け舟」→「二艘船」→「かざぐるま」→「お狐さん」

とあり、1枚の正方形の紙を折り進めていくと、6つの伝承作品がリレー形式で現れる。この中で、「虚無僧」は「奴さん」に充てられることもあり、また「鯛の尾」は現在伝承されていないため、笠原氏の推定として、「奴さん」の「袴」が充てられている。職員の中で祖母に教えてもらったという経験者は、

すぐに折ることが出来たので、みすゞの育った地域だけでなく広く伝えられた折紙遊びの形といえる。

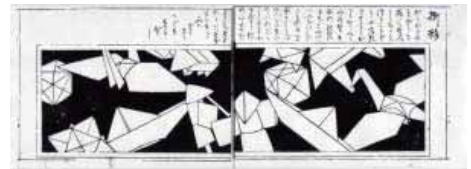
【フレーベルと折紙】

ドイツの教育家フレーベル（1782～1852）は、幼児教育の場で「手技」と称する遊戯の一つに折紙を採り入れ、正方形の紙を縦横や斜めに折り、平面構成を学ぶ機会にした。たとえば、辺と平行な線で半分に折る場合と、対角線で半分に折る場合は、どちらも正方形の半分の大きさ、つまり、折った後の長方形と二等辺三角形は面積が等しいということを発見する（右図）。このように、フレーベルは正方形という形を重要視し、折るたびに生まれる三角形と四角形の形やそれらの相互関係を理解する手段として用いた。



【くすだま折紙】

日本では、二つ以上のパーツを組み合わせて作る折紙を「ユニット折紙」と称し、海外では「モジュラー折紙」(modular origami)とも呼ばれている。伝承の「手裏剣」^{しゅりけん}や「玉手箱」もユニット折紙の仲間。組み合わせによって正20面体まで作れるが、ひねりや突起などの外側の形、また配色によってさまざまな表現が楽しめる。中にすずを入れたり、糸をたらしてぶら下げたりする飾り方もできる。右図の『欄間図式』にも「玉手箱」が描かれている。



『欄間図式』大岡隼人 享保19年
国立国会図書館蔵

【「ミウラ折り」とは？】

宇宙構造工学の研究者、東京大学名誉教授の三浦公亮氏^{みうらこうりょう}が考案した折り方で、折り線の角度をわずかにずらすため、折り目がかさばらず、対角線を持って一気に展開、折りたたみができ、さらに折り線の山折り谷折りが一定なため破れにくいという長所がある。限られた空間を最大限に生かすこの理論は、宇宙空間では人工衛星の太陽光パネルやアンテナの展開、収容に利用され、地球上では、地図（特に登山用）の折り方として、その開閉の手軽さが評価されている。また、軽さと丈夫さを追求した製罐業者によって、飲料缶の容器にも応用されており、我々はそれと気づかずにミウラ折りの効果を体感していることになる。

ミウラ折りを体験するコーナーを展示ケース横に設けたところ、見本を参考にA4のコピー紙を折る姿が大人の方を中心に見られた。

【関連イベント】「おりがみ塾」期日：期間中の毎週火曜・金曜日 14:30～15:30

季節や行事に関連した折紙作品1、2点を職員が指導する折紙教室を開催したところ、女の子や年配の女性が多く参加され、毎回通われる方もおられた。山田氏の作品「カニ」と「イカ」も鳥取の名物として登場した。

【参考文献】

「本の中の「おりがみ」」国立国会図書館 第151回常設展示パンフレット 2007年

『おりがみ新発見3』笠原邦夫 著 日貿出版社 2005年

『空のかあさま 新装版 金子みすゞ全集Ⅱ』JULIA出版局 1984年

「うしにひかれてわらべ館」

期間：平成 20 年 12 月 18 日～平成 21 年 3 月 17 日

【開催趣旨】

年 4 回開催するギャラリー童夢企画展。年末年始に懸かる 4 回目は、恒例の干支の郷土玩具展である。今回は、平成 21 年の干支「牛」にちなんだ各地の郷土玩具を展示し、郷土玩具のモチーフになったエピソードや牛にまつわる天神信仰などを併せて紹介した。

【展示資料一覧】

都道府県	資料名	産地の名称など	都道府県	資料名	産地の名称など	
青森県	かぶら牛	下川原土人形	新潟県	木牛	木地細工	
	大根牛		栃木県	牛	鹿沼きびがら細工	
	俵牛			勉学撫牛	佐野土人形	
	牛乗り天神笛			出世牛		
	玉牛笛			招福牛		
	牛乗り童子		埼玉県	口上牛	春日部張子	
秋田県	福牛土鈴	中山土人形		首振り牛		
	千両牛		東京都	奴うし	江戸張子	
	牛乗り天神			招きうし		
岩手県	牛乗りお石	六原張子	東京都	福牛	今戸土人形	
	金ベコ	花巻の張子		福牛		
	木彫りうし	木彫り細工		恵方牛		
山形県	牛	笹野一刀彫		うし紅		
	牛乗り天神	相良土人形		山梨県		牛土鈴
宮城県	俵牛	堤土人形	千葉県	御幣牛	芝原土人形	
	寝牛			干支の牛		
	牛乗り子ども	仙台張子	静岡県	牛ころがし	浜松張子	
	俵牛	木地玩具	富山県	牛土鈴	富山土人形	
	牛乗り天神			赤牛土鈴		
福島県	こらんしょ牛	中湯川土人形	石川県	俵牛	金沢張子	
	こらんしょ牛			千両牛		
	福良雀乗り牛			牛起上り		
	小槌乗り牛		長野県	俵牛	中野土人形	
	扇持ち牛			滋賀県	牛乗り童子	小幡土人形
	牛乗り天神		牛乗り天神			
	豆招き牛		十二支土鈴		大津絵土鈴	
	草刈童子	三春張子	京都府	俵牛	伏見土人形	
	牛乗り天神			牛車		
	牛乗り大黒			牛乗り天神		
	赤ベコ		大阪府	首振り牛	柏原張子	
	福ベコ			寝牛		

都道府県	資料名	産地の名称など	都道府県	資料名	産地の名称など
奈良県	俵牛	初瀬出雲	鳥取県	牛乗り天神	北条土人形
	寝牛			山陰十二支（丑）	木地人形
岡山県	桃丑（大）	吉備津土人形	島根県	神牛	出雲張子
	桃丑（青）		高知県	うし土鈴	香泉土人形
	牛乗天神		愛媛県	横綱牛	木彫り細工
	吉備牛（作州牛）	竹細工		牛鬼（ブーヤレ）	宇和島の張子
	牛	寄木細工	福岡県	牛乗り福神土鈴	古博多土人形
広島県	寝牛乗り天神	三次土人形	大分県	魔除け牛土鈴	別府土人形
	立牛乗り天神		佐賀県	牛土鈴	能古見土人形
	寝牛	常石張子		宝珠牛土鈴	
鳥取県	鳥取のえと	木彫り細工	宮崎県		佐土原土人形
	土鈴丑	因州若桜焼		牛土鈴	
	因伯牛	倉吉張子		福牛土鈴	
	いなば牛	鳥取張子	鹿児島県	丑	薩摩首人形
	丑	北条土人形	沖縄県	牛グラー	琉球張子

（すべてわらべ館所蔵）

【展示資料ピックアップ】

◆金ベコ（岩手県）

花巻の「金ベコ」は金色に輝く身体を持っているが、ただおめでたさを表したのではなく、かつて南部藩では砂金が採れたので、それ運ぶ牛をイメージして金色に彩色したというエピソードをもつ。



◆下川原土人形（青森県）

ほとんど 10cm に満たない小ささながら、いずれも土笛として細工されている。弘前を代表する郷土玩具で、その種類が豊富なことでも知られている。



◆うし紅（東京都）

『大辞林』によると、「丑紅」とは「寒中の丑の日に売る紅。女性の口中の荒れを防ぐのに効があるという。寒紅。[季]冬。」とあり、昔の女性はできもの、肌荒れに牛のご利益を当てにして、美しさのため、冬場の丑の日にこのうし紅を買い求めたという（【牛に託す思い】参照）。



◆吉備牛（岡山県）

昭和 30 年（1955）頃に津山で生れた竹を素材とする郷土玩具。竹の筒をバランスよく胴と頭と脚に組み、力強い造形美を生み出している。和牛の名産地ならではの一品。



【牛に託す思い】

現代の日本人にとって、牛は「肉を食べる」「乳を飲む」という役回りを与えられているが、動力機械や化学工業が発達するまでは、その強い力が農耕や運搬で大活躍し、糞は大切な肥料として利用されていた。今でもインドでは、ヒンズー教徒から聖なる存在として崇められ、その食肉は禁じられており、糞は固形燃料として一般的に用いられている。

それほど人の生活に欠かすことのできない牛は、日本でも信仰の対象にされていた。郷土玩具の世界で見えていくと、会津の「赤ベコ」は、牛がお寺の工事を助けた話と、赤が天然痘（ほうそう）という病を追い払う火の色から生れたとされていて、「ほうそうよけ」の役目を担っていました。また、できものを表す言葉「瘡（かさ、くさ）」にかけて、「草」をたくさん食べる牛へその治癒力を託されたのが、和歌山の「瓦牛」である。



さらに、京都伏見人形の「撫牛」は、大黒天と組になり出世を託されたという。そして、西日本に多い「牛乗り天神」の「天神」は菅原道真の姿をしているが、そもそも菅原道真と結びつく前は農耕神として祀られていたので、牛との結びつきによって豊作へのさらなる強い願いが込められている。「俵牛」もその典型のひとつ。西日本では、近年まで天神像を節句の贈物としており、現在でも雛飾りとは別に陳列する家庭もある。

【聖なる牛…闘牛】

闘牛にも神事と娯楽の両方の性格があり、新潟県小千谷の闘牛は前者にあたるため、勝負はつけず、よって賭けも行われぬ。この闘牛は、平成 16 年（2004）の新潟県中越地震の影響で一時中断したものの、半年後には復活し、牛たちは復興を願う人々の思いを託された。それよりも前、小千谷の子どもたちは、「木牛」を手に角を突き合わせて闘牛ごっこを楽しんだが、残念ながらこちらは作者春日礼智氏の他界により廃絶している。張子や土人形が多い郷土玩具界にあって、実際に手にして遊べた木牛は、おもちゃの原初の形をとどめた貴重な遺産である。



なお、闘牛をモチーフにした郷土玩具は沖縄の琉球張子や島根県（「隠岐横綱牛」）にもあり、沖縄は平成 9 年（1997）の年賀切手のモデルにもなっている。

【鳥取県の牛たち】

◆「牛乗り天神」（れんべえ人形）…北条土人形

県中部の北栄町から「れんべえ人形」を世に送り出す加藤廉兵衛さんは、今年で 93 歳。戦後になって始めた土人形づくりに試行錯誤だった頃、鳥取の民芸運動の立役者、吉田璋也さんから太鼓判を押され、その道が定まったという。「自分のは伝統工芸ではないから」と、常に新しい作品のモチーフを求める姿からは、ものづくりへの原点を感じさせる。軒先には季節ごとに変わる手のひらほどの人形の型が並ぶ工房の中で、一つずつ彩色を施す廉兵衛さんの姿が見られる。



◆「いなば牛」（柳屋）…鳥取張子

「柳屋」の屋号で知られる田中謹二さんと宮子さんご夫婦でつくる張子の数々は、素朴で愛らしい表情を浮かべた人形が多く、見る者の心を和ませる。先代の達之助さんが鳥取の伝承作品「古代篇」と創作作品「創作篇」の画集を遺しており、その「創作篇」の中には「因伯牛」（右図）の名で、今の作品よりも脚の長い写実的な牛の姿が描かれている。



現在の「いなば牛」



達之助氏筆「因伯牛」

◆「山陰十二支」(小椋屋) …木地玩具

鳥取市の東に隣接する岩美町には、のどかな温泉街「岩井温泉」がある。小椋家が長きに渡って家業として挽物細工を手がけてきた中、先々代が同じ因幡の吉岡温泉から移住し、挽物玩具をつくりはじめ、先代の幸治さんが昭和9年(1934)に「山陰十二支」を誕生させた。現在、小椋昌雄さんと瀧本泰弘さんとで大中小の干支の動物を制作しており、11月頃には絵付けを待つえごのきの本体の行列が工房を埋め尽くす。



◆「鳥取のえと」(信夫工芸) …木地玩具

明快な形と色で12体の動物を表現した「鳥取のえと」シリーズは、鳥取市上町にある信夫工芸の2代目、信夫賢太郎さんの作品。色とりどりの十二支が大・中・小・豆と4サイズ並ぶ様は、なかなかの壮観で、それに加え彩色を最小限に抑えた白木タイプなども制作する。鳥取の伝統行事として有名な流し雛の新しいデザインや木目を活かした「木画」も手がけ、木の質感を大事に表現している。



◆「干支土鈴」(因州若桜焼) …土人形

氷ノ山を控える若桜町に工房兼住居を構える大坪英治さんは、鮮やかで丸みのあるかわいらしい土鈴で、十二支のみならず、若桜町にたたく蒸気機関車や「トリピー」(鳥取県のキャラクター)までもモデルにするユニークな陶芸作家である。俵を抱えた干支が緋毛氈に鎮座する様が人気を呼んでいる。



◆「因伯牛」(備後屋) …倉吉張子

倉吉市の白壁土蔵群の一角で工房を開く三好明さんは、「備後屋」の6代目として奥様とともに伝統張子「はこた人形」を中心に郷土玩具の制作を続けており、地元の大学生にも張子制作を指導し、技術の継承を図っている。当地で「イカ」と呼ばれる和風など、他の郷土玩具も制作しているが、この引き車が付いた「因伯牛」は現在作られていない。



【関連イベント】

「干支を彩る郷土玩具—ぬりえで年賀状—」

期間：平成20年12月18日(木)～20日(土) 午後14:30～15:30 場所：1階 企画展示室

比較的単純な輪郭線や色合いを持つ牛の郷土玩具をデジタルカメラで撮影し、画像ソフトで輪郭線を抽出する処理を施して、はがきに印刷。水彩色鉛筆で彩色すると、絵手紙のようなタッチも楽しめる。

干支の郷土玩具展に合わせて開催する関連イベントとして、今回で3回目を迎えた同企画は、干支の郷土玩具展が一周するまで続きたいイベントとして計画していたが、前年までとは一変、参加者が少なく、期間中の悪天候を差し引いても、来年度以降の継続を考え直す必要に迫られた。

【参考文献】

『郷土玩具』で知る日本人の暮らしと心』畑野栄三・岩井宏実監修 くもん出版 2003年

『全国郷土玩具ガイド』1～4 畑野栄三 婦女界出版社 平成5年

§ わらべ館 ギャラリー童夢企画展 アンケート集計 §

当館では、館全体に関するアンケートを入館者から募集しているが、ギャラリー童夢企画展では、昨年度から展示ケースの横に下記の設問のアンケート用紙を設置し、ご覧になった方からの回答を集めている。年間4回の各企画展の内容によって、回収数は20枚から60枚前後と幅が生じているが、来年度からは企画展に絞った設問を増やして観覧者のご意見を収集し、今後の展示に活かしていきたい。

〈設問〉

- 1-① 住まい 鳥取市内 鳥取市外（記入） 県外（記入）
- ② 年齢 10代～70代以上の選択
- ③ 性別 選択
- 2 企画展を何で知りましたか
館内の案内（ポスター等） 館外のチラシ・ポスター（場所記入） わらべプレス（HP）
新聞 その他（記入）
- 3-① 企画展のテーマは おもしろい どちらでもない つまらない
その他、もしくは上記の理由（記入）
- ② 解説の内容は わかりやすい すこしむずかしい とてもむずかしい
その他、もしくは上記の理由（記入）
- 4 今後ギャラリー童夢でどのような展示が見たいですか（記入）
- 5 わらべ館で見たいおもちゃややってみたい遊びがありますか（記入）

【Toy 楽器展】

- ・回収数…38
- ・3-① おもしろい 28 その理由（楽しいから） どちらでもない 6 つまらない 4
- 3-② わかりやすい 25 すこしむずかしい 8 とてもむずかしい 3 その理由（字が多くて読む気がしない）

【プラモデル in 鳥取】

- ・回収数…61
- ・3-① おもしろい 45 その理由（珍しいから） どちらでもない 5 つまらない 6 その理由（10代には合わない。資料そのものの歴史的背景があると良かった。）
- 3-② わかりやすい 35 すこしむずかしい 13 とてもむずかしい 6 その理由（字が小さく読みづらい）

【おりがみ折紙 origami】

- ・回収数…24
- ・3-① おもしろい 15 どちらでもない 3 つまらない 2 その他（ふつう）
- 3-② わかりやすい 11 すこしむずかしい 5 とてもむずかしい 2 その他（そんなにわからなくもない。子育て時代を思い出した。）

その他 ミウラ折りの説明が不十分で、完成しにくい。より判りやすく正確な説明が必要。

【うしにひかれてわらべ館 干支の郷土玩具展】

- ・回収数…24
- ・3-① おもしろい 24 どちらでもない つまらない その他 (ふつう)
- ・3-② わかりやすい 20 すこしむずかしい 4 とてもむずかしい その他 (

【設問4 今後ギャラリー童夢でどのような展示が見たいですか】

- ・戦前の双六がもう少し見たかった。
- ・ガンダム展、アニメキャラクター展。
- ・楽しく脳を使うもの。
- ・最新流行のおもちゃ展。
- ・年代ごとの流行物。
- ・リサイクルおもちゃ展。
- ・オルゴール展。
- ・プラレール。
- ・もっと古い人形を見たい。
- ・外国のおもちゃの展示。
- ・一つのおもちゃを取り上げて、その歴史を見てみたい。できればコマで。
- ・ロケットやロボットなどSFをテーマとしたおもちゃの展示。
- ・子供の頃の思い出。
- ・のらくろ。
- ・昔と今のゲームの対抗。
- ・行事に合わせた展示。節句人形など。
- ・鳥取の昔のもの。
- ・おもちゃ工場の日。
- ・鉄道ジオラマ。
- ・プラモデル展の定期開催 (無料コーナーにて)
- ・折紙の展示。おもちゃのお菓子屋さん。
- ・もう少し展示を広くして、多くの作品が見たい。
- ・シルバニアファミリー、ソフビ人形。
- ・ウルトラマンや仮面ライダーのかっこいいの。
- ・明治～大正時代のおもちゃ特集。
- ・18分の1鉄道の展示がもう一度見たい。
- ・もっと実際に触ったり、やってみたりしてみたい。
- ・パズル。

【設問5 わらべ館で見たいおもちゃややってみみたい遊びがありますか】

- ・竹とんぼ (昔遊び)
- ・昔のお菓子づくり。
- ・かごめかごめ。
- ・磁石や電気を使った科学工作遊び。折紙。
- ・祖父母と孫の歌の会や工作教室。
- ・プラモデル作り。
- ・世界のカードゲーム。
- ・DS。
- ・リカちゃんごっこ。
- ・勾玉作り、ぬりえ。
- ・78才、何十年の昔を思い出しています。
- ・お雛様や兜を子どもが身に着けて、写真撮影ができる。
- ・とても興味深く、これからの作品製作に役立ちました。良い刺激を受けることができ、良かったです。
- ・体を使った遊び。
- ・モンテッソーリのおもちゃ
- ・迷路遊び。
- ・ファミコン。UNO。
- ・ジオラマの作り方。
- ・メンコ。今どきのゲームを置いてほしい。
- ・パズル。
- ・楽器をもっと増やしてもらいたい。
- ・けんだま、わなげ、こま。
- ・独楽廻し、たこ作りなど。
- ・おりがみでいろいろ作りたい。

《「むかしの遊びと歌」収集事業報告》

鳥取のお手玉遊び歌 2

－「とっとりのお手玉の会」の資料より－

昨年度の『万遊鏡 第3号』に「とっとりのお手玉の会」の活動紹介と、会で収集したお手玉遊びの歌を会の資料から4曲掲載したが、今回、同資料の中から残りの5曲分を紹介する。

♪おみんでおさら（鳥取市国府町）

おみんで おさら お手のせ 落として
おさら
おつかみ 落として おさら
おちりんこ 落として おさら
おひだり おひだり 右 左
なかずま そろえて ひよこが やちよ
やっちやみ 落として おさら
お手のふし さつてのうし ふうしで
おさら
おんば おんばの のりかえ ふうしで
おさら
のらんがしいる のらんがしいる しいるで

おさら
大石 小石で おさら
大袖 小袖で おさら
手ばたき たたいて たたいて おさら
小さい橋くぐれ 小さい橋くぐれ くぐって
おさら
大橋くぐれ 大橋くぐれ くぐって おさら
玉かえ みんな たたいて おさら
かまきり いっかんしょ にいかんしょ
さだかんしょで おさら ひっきりなあし
いっかんしょ につかんしょ さだかんしょで
おさら

♪お一つ落として（鳥取市鹿野町河内）

お一つ 落として おっさあら
おみんな おっさあら
お手しゃみ おとして おっさあら
お手ばさみ おとして おっさあら
おちりんこ おっさあら
お左 お左 ぎっちょ 右 左
中来て つまよせ さらりと 手につく
おっさあら
やちない おっさあら

大袖 おっさあら お手ばき おっさあら
かきこせ おっさあら 大ひざ おっさあら
おん白 白々 おとして おっさあら
お手つぶし 竹のふし おっさあら
おんばさん おとして おっさあら
ひい ふう みい よお いつ むう なな
やあ この とお
やっちき どっこい かあらす
おとして おっさあら かくし

♪お一つてんして（米子市）

お一つ てんして おさら
お二つ てんして おさら
おみんな おいでなさい
おてしやに おさら
おはさみ おさら
おちりんこ おさら

ひよどり まねいて お一まねき
なかい てんして つまよせ さらりと
てつき しまつき おさら
やっちょみ やっちょみで おさら
おってば しゅうけん
たたいて おさら

小さいはし くぐれ
くぐって おさら
大きなはし くぐれ

おばら さらり やれ こらしよ
どっこいしょで
おさら

♪お一つてんして（東伯郡琴浦町赤碕）

お一つ てんして おさら
お二つ てんして おさら
三こ てんして 一こ てんして おさら
お四つ おいでなさい
おてしゃに おてしゃに おてしゃに
おてしゃに おさら
おはこみ おはこみ おはこみ
おはこみ おさら
おちりんこ おちりんこ おちりんこ
おちりんこ おさら
ひよどり まねいて おおまねき
なかけて つませよ さらりと

てつき しまつき おさら
やっちょみ やっちょみ やっちょみ
やっちょみで おさら
おおでば おおでば おおでば
しゅうけん たたいて おさら
小さいはし くぐれ 小さいはし くぐれ
くぐって おさら
大きいはし くぐれ 大きいはし くぐれ
くぐって おさら
おばの さらり やれ こらしよ
どっこいしょで おさら

♪お手玉～5つでする場合（東伯郡湯梨浜町東郷）

おっさあら
おふたつ おふたつ おひとつ おっさあら
おみんな おっさあら
お手しゃみ おとして おっさあら
おちりんこ おっさあら
おひだり おひだり 右 左
中来て まつよせ さらりと …?…
白づき おっさあら

おてっぷし おっさあら
しーろー とんぎり おっさあら
おみんな おっさあら
小さい橋 くぐれ 小さい橋 くぐれ
（5個くぐらす）
おみんな おっさあら
大きい橋 渡れ（くぐれ？）
おみんな おっさあら

◆わらべ館「昔あそび」事業

平成21年度から、わらべ館では「とっとりのお手玉の会（東部地区支部）」の協力を得て、月1回、昔あそびの体験の場を設けることになった。お手玉のみならず、あやとりや竹がえしなどの室内遊びを中心に、世代を越えて楽しめる伝承遊びを次世代へ伝えていくもの。

「むかしのあそびと歌」収集事業は、来年度から「遊びと歌」収集事業へと名称を改めるが、この「昔あそび」事業を通して、伝承遊びの音声や動画を記録していく予定である。



わらべ館の今まで（主におもちゃ関連の事項を掲載）

年	月 日	出 来 事
1995（平成 7）	7月 5日	ヘッセン人形博物館との間に姉妹館提携協定を締結
	7月 7日	わらべ館開館
1999（平成 11）	11月 23日	「おもちゃ講演会」（年1回開催）始まる。講師：和久洋三氏（おもちゃ作家）
2000（平成 12）	9月 14日	ヘッセン人形博物館との姉妹館提携5周年の記念に「姉妹館交流5周年展」を開催
	11月 23日	おもちゃ講演会 講師：岩城敏之氏（おもちゃ研究者）
2001（平成 13）	11月 20日	3階おもちゃの部屋に「姉妹館交流コーナー」を新設
	6月 23・24日	おもちゃ講演会 講師：檜山永次氏（おもちゃ作家）
2002（平成 14）	2月 21日	3階の新着資料コーナーを「ギャラリー童夢」とし、企画展を開催
	6月 15日	おもちゃ講演会 講師：多田千尋氏（おもちゃ研究者）
2003（平成 15）	10月 23日	ヘッセン人形博との人形交流始まる。カスパール人形⇄干支の郷土玩具
	7月 13日	おもちゃ講演会 講師：松本零士氏（漫画家）
2004（平成 16）	6月 13日	ヘッセン人形博との人形交流② ケテクルーゼ人形⇄因伯牛の木彫り
	6月 19日	2階おもちゃの部屋の体験スペースを拡張
	9月 23日	おもちゃ講演会 講師：北原照久氏（おもちゃコレクター）
2005（平成 17）	7月 7日	ヘッセン人形博との人形交流③ トラハテンプッペン⇄押し絵羽子板
	9月 17日	おもちゃ講演会 講師：藤田由仁氏（日本独楽博物館館長）
2006（平成 18）	8月 23日	ヘッセン人形博との人形交流④ 「星の銀貨」人形⇄五月人形「金太郎」
	11月 26日	おもちゃ講演会 講師：長谷川重隆氏（おもちゃ研究者）
2007（平成 19）	10月 13日	おもちゃ講演会 講師：松本夏樹氏（映像研究者）、小崎泰嗣氏（活動弁士）
	11月 5日	ヘッセン人形博との人形交流⑤ 「ケテ・クルーゼ」人形⇄「リカちゃんセット」
2008（平成 20）	10月 18日	おもちゃ講演会 講師：山田勝久氏（折紙作家）
		ヘッセン人形博との人形交流⑥ 「バランス人形」⇄「超合金 仮面ライダー」

ギャラリー童夢展示履歴

年度	期 間	タ イ ト ル
平成14年度	2月21日～5月14日	「鳥取の郷土玩具展－節句のおもちゃたち－」
	5月16日～8月20日	「板裕生の世界～裕生が愛した鳥取のおもちゃたち～」
	8月21日～10月8日	「鳥取の郷土玩具作家三人展」
	10月9日～12月17日	「東北のこけしたち」
	12月19日～翌3月18日	「ひつじの郷土玩具展」
平成15年度	3月20日～6月17日	「雛と天神」
	6月19日～9月16日	「愛され続けた市松人形」
	9月18日～12月16日	「雅な遊び」
	12月18日～翌3月16日	「申」
平成16年度	3月18日～6月15日	「押し絵～絵と工芸の融合～」
	6月19日～9月14日	「立版古～錦絵に込められた小世界～」
	9月16日～12月14日	「からくりの機素～物の動く仕組みを理解しよう～」
	12月16日～翌3月15日	「酉」
平成17年度	3月19日～6月14日	「テディベア～100歳を超えた友だち～」
	6月16日～9月9日	「山本千恵子 和紙人形の世界」
	9月10日～12月20日	「こま コマ 独楽」
	12月22日～翌3月14日	「戌年来る」
平成18年度	3月16日～6月20日	「扇は胡蝶と戯れて～伝統遊戯 投扇興」
	6月22日～9月19日	「ドイツと鳥取 おはなしの世界」
	9月21日～12月19日	「懐かしさと新しさと－昭和30年代の子どもたち」
	12月21日～翌3月21日	「日本のいのしし」
平成19年度	3月23日～6月19日	「少女の”夢”とリアル～着せかえ人形展～」
	6月21日～9月18日	「木のおもちゃ展－鳥取の木で遊ぶ－」
	9月20日～12月18日	「あやなす光と影 光学おもちゃと影遊び」
	12月20日～翌3月18日	「ちゅうちゅうねずかいな」

『ギャラリー童夢企画展報告書 万遊鏡』第4号
 発行 平成21年3月31日
 編集 財団法人 鳥取童謡・おもちゃ館（わらべ館）
 〒680-0022 鳥取市西町3丁目202
 Tel 0857-22-7070 Fax 0857-22-3030
 印刷